

やまもと たいし
山本 大志 です。

地域包括ケアシステムって？

高齢者が、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に提供できる体制を言います。

地域包括ケアシステムを進めるため、各分野で様々な取り組みを進めています。団塊の世代が75歳以上となる平成35年（2025年）までに構築する必要があります。



地域包括ケアシステムのために地域は何をすればいいの？

→まずは、話し合いの場をもつこと

地域にどんなサービスやどんな助け合いのしくみがあれば、年をとっても安心して暮らしていけるのか、また年をとっても元気で生きがいを持って暮らしていくにはどうしたらいいのか、そのために地域はどんなことができるのかを検討してみましょう。

→地域に既にある資源を生かして、できるところから始めてみる。

例えば、地域の茶の間、体操の会、ゴミだしなどちょっとしたお困りごとの支援、高齢者への訪問活動（友愛訪問）など、地域の助け合いにつながる活動を地域の特性に合わせてはじめてみましょう。

どんなときに支え合いのしくみづくり推進員に相談すればいいの？

→支え合いの地域づくりについて知りたい、取り組んでみたいと思ったときにご相談ください

- ・地域包括ケア、支え合いのしくみづくりについて説明に伺います。
- ・地域での福祉活動「茶の間・友愛訪問・助け合いの活動をはじめたい、やっているけど問題がでてきた等」のご相談にのります。
- ・地域での話し合いの場に出向き、話し合いのお手伝いをします。

😊 いつでも地域のほうに出向きますので、声をかけてください。 よろしくお願いたします！ 😊

支え合いのしくみづくり推進員とは

支え合いのしくみづくり推進員は、生活支援コーディネーターとも呼ばれます。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるように、地域住民の目線で、地域と共に介護予防・生活支援サービスの体制整備を推進していきます。

支え合いのしくみづくり推進員 取組み

1 社会資源の把握

～地域の支えあいに関する情報を整備します～
お茶の間や地域の居場所等、生活支援に関する有償サービス、NPOやボランティアグループなど地域の社会資源を把握し、「見える化」をおこないます。

2 生活支援ニーズの把握・共有

～地域の困りごとについて共に考えます～
地域住民のどのような困りごとが多く、どのような理由が多いかを「包括支援センター主催の地域ケア会議への出席」、「地域でのワークショップ開催」等により把握・分析します。

3 担い手の育成・発掘

～元気な高齢者の社会参加を応援します～
コミ協、自治会、包括支援センター、社会福祉協議会、行政等と共に連携を深めながら、担い手の育成及び、発掘に努めます。

4 協議体の開催

～多様な主体と意見交換・連携していきます～
地域関係者、行政機関等が参加し、支え合いのしくみづくりを構築していくための活動を皆考える場を協議体といいます。地域における課題や情報共有、連携強化を目的に開催します。

小針・小新圏域支え合いのしくみづくり推進員 山本の決意

私は、地域を学び「地域にあっただらいいな！」を、地域住民の目線で考え、地域の皆様と共に作っていきたいと思っています。今後、地域の皆様の集まりに積極的に伺わせて頂きたいのでよろしくお願いいたします。



☎ 201-1351 (平日8:30~17:30)
〒950-2021 新潟市西区小針藤山1番17号
新潟市地域包括支援センター小針・小針内

↑ 平成29年度小針・小新圏域 支え合いのしくみづくり推進員 たいしくん